



教授就任のご挨拶

看護学科 臨床看護学講座（臨床医学） 教授 やまもと まさひろ
山本 昌弘

2月1日付で医学部看護学科臨床看護学講座（臨床医学）の教授を拝命しました山本 昌弘と申します。私は、1996年に島根医科大学（現島根大学）医学部医学科を卒業後、同医学部第一内科に入局しました。島根県で研修を終え、島根大学医学部内科学講座（内科学第一）に在籍し、本学大学院で学位を取得しました。



同講座において、加藤 譲先生、杉本利嗣先生、そして現職教授の金崎啓造先生の薫陶を受け、講師・准教授として内分泌・糖尿病・骨代謝領域の診療や、学部学生の卒前教育や初期研修および専門医教育に携わってまいりました。研究面では、脆弱性骨折の主要な原因である続発性骨粗鬆症において、発生数の多い2型糖尿病患者において、骨密度が高くても骨折を生じる骨粗鬆症の病態の一端を臨床研究で解明してきました。またその骨折予防に対し、骨粗鬆症診療の普及と啓発に取り組んでまいりました。

さらなる超高齢社会を迎える本邦において、医療機関の内外で患者や地域住民に適切な医療情報を提供し、必要とする医療の導入を勧め、在宅生活を延伸するためには、健康状態や生活環境を科学的に評価し、提供する医療・看護の最適化を図る研究者的視点を有した看護職の存在が不可欠です。これまで私が培ってきた臨床研究の経験を活かし、地域社会の看護水準の向上を導く指導者の看護師の育成と輩出に努めたいと考えています。

問い合わせ先 看護学科 事務室 TEL:0853-20-2314

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

2025年3月15日～4月14日 対象者: 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
3/1(土)～3/31(月)	令和6年度 肝臓病教室・家族支援講座 まとめ配信	肝疾患相談・支援センター ホームページ上での動画配信	医療 一般	島根大学医学部附属病院 肝疾患相談・支援センター

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



CONTENTS

- 中表紙
 - 教授就任のご挨拶
 - 退職のご挨拶
- 裏表紙
 - 教授就任のご挨拶
 - 研修会・講演会・セミナー開催情報

表紙 副病院長 鬼形 和道
乳腺・内分泌外科 診療教授 板倉 正幸
先端がん治療センター 准教授 兒玉 達夫

教授就任のご挨拶

形成外科 教授 はやしだ けんじ
林田 健志



2月1日付で形成外科教授を拝命しましたので、ご挨拶申し上げます。私は島根医科大学21期入学、サッカー部に所属、2002年に卒業しました。卒業後は、長崎大学形成外科学教室に入局し、臨床・研究の基礎を学びました。その後、ご縁があり島根大学に戻り、2017年の形成外科診療科開設に伴い診療科長を務めています。病院内外には、顔見知りの先輩方、同級生、後輩が多く、いろいろなことで支援頂いており、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

研究における専門分野は、“創傷”と“再生医療”になります。高齢化社会を迎え、皮膚の慢性潰瘍に罹患した患者さんは激増しています。当院形成外科では、手術治療のみならず、各種の再生材料を用いた最新の治療方法を患者さんに提供いたします。また、臨床面では他診療科と連携した治療

を得意としています。当院の特色である診療科の垣根を超えた、皮膚がん治療センター、小児脳神経センター、乳腺センターなどにも形成外科の手術手技を用いて積極的に協力しています。

山陰地方は形成外科医の人材不足が著しく、特に島根県西部には、勤務医が一人もない状態が続いています。初代教授として、まずは若い人材の教育・育成に尽力し、島根県の医療の底上げに貢献します。今後はさらに地域社会との連携を強化していきますので、お気軽にご相談ください。若輩者ですが、今後ともご指導やご協力をお願いいたします。

問い合わせ先 形成外科 外来 TEL:0853-20-2382

退職のご挨拶

副病院長（研究・教育担当） おにかた かずみち
鬼形 和道

光陰矢の如し、時は止まることなく、その刻みは本当に正確です。いつまでも此処に居たいと願っても、次の世代にバトンを渡すことが私たちの使命です。1985年に本学を卒業、それから40年の時間が経ちました。本学小児科学講座に着任したのは、2009年でした。2回目の出雲生活も16年余りになりました。

病院運営委員会に初めて出席したのは2012年4月、井川 前病院長による新体制がスタートした年で、私は卒後臨床研修センターの副センター長でした。翌年には「みらい棟」が完成、開所記念式典では当時の溝口知事、小林学長、井川病院長、大谷医学部長、そして藤澤研修医と並ぶ記念撮影が懐かしく思い出されます。翌年、みらい棟は火災に見舞われましたが、研修医諸君と病院関係者の協働で乗り切りました。

2015年にセンター長を拝命、学生時代を知る研修医のサポート、臨床研修指導医講習会（チーフタスク）を通じて、幾多の若手医師の成長を見守ってきました。卒前と卒後の教育に参画できる機会を得たことは、教員冥利に尽きます。ありがたいことです。

2019年10月から4年間、医学部長を務めました。COVID-19と共に2020年を迎え、医学部コロナウイルス感染症対策委員会と病院COVID-19対策委員会が毎週開催されました。学生のベッドサイド実習を展開する上で、井川 前病院長の同席は心強いものでした。

副病院長（研究・教育担当）として、医療スタッフを対象とした講義「医療人にとっての心理的安全性やコミュニケーション」、ベッドサイド実習に臨む医学生の「Clinical Clerkshipに向けた姿勢」の共有、そして病院機能評価（教育領域）への小さな貢献が記憶に残ります。

この病院で働ける機会を与えていただいたことに心より感謝申し上げます。椎名病院長の下、心理的安全性が保持された組織を継続していただければ幸いです。



左:田邊副病院長、中央:筆者、右:椎名 現病院長



島大病院ニュース 2025年3月

ご報告



島大病院ニュース 2025年3月

ご報告

退職のご挨拶

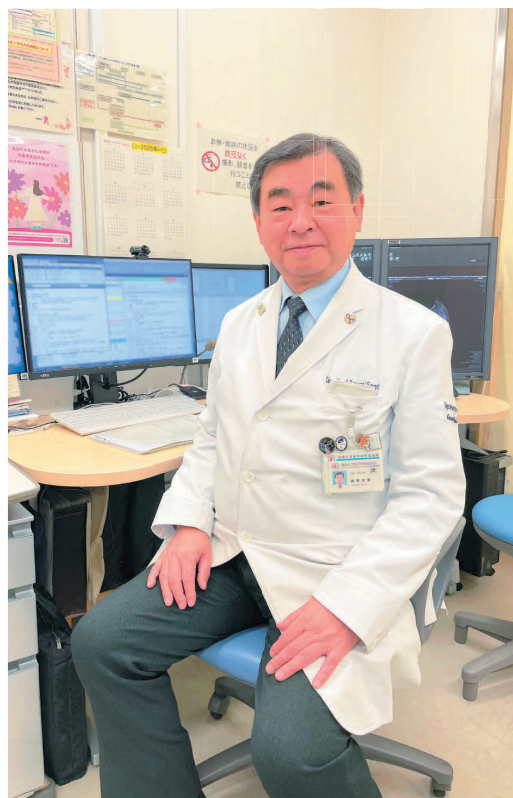
乳腺センター センター長、乳腺内分泌外科 診療科長 いたくら まさゆき
板倉 正幸

本年3月を持ちまして長らくお世話になりました島根大学医学部附属病院を定年退職いたします。島根医科大学第三期生として入学し、卒業後は当時の第一外科に入局しました。大学院を経て学位を取得し、県内・県外の病院で外科医として研鑽を積みましたが、医師となって約41年間のうちの大半を当院で過ごさせていただいたことを感謝申し上げます。

またポスドクとしてアメリカ留学の機会にも恵まれ、カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA)、Microbiology & Immunology 教室 (Benjamin Bonavida 教授) で2年弱の間、Multistep Carcinogenesis の研究に携わることができました。この期間は研究面でも生活面でもまるで目から鱗で、すべてのものが新鮮であり、その後の生活の原動力になってくれたものと思います。

1998年に本学に帰りましてからは臨床中心の生活を送りました。その後外科学講座並びに外科系診療科の再編成を機に、2006年4月から乳腺内分泌外科診療科長を拝命し、乳癌の治療を中心とした診療に従事しました。乳癌は女性の部位別がん罹患率の1位を占めていますが、当院における患者数・手術数も右肩上がり増加しています。乳癌の診断と治療も日進月歩で、医師、薬剤師、看護師、技師、MSWなど院内の多職種連携による総合的治療を提供する必要性が増加したことから、2023年4月に乳腺センターを開設し、そのセンター長を拝命しました。山陰で初めての乳腺センターとして多くの部門の方々の力強いご支援を頂き、活動することができましたことに心より感謝申し上げます。

これからの島根大学医学部および医学部附属病院のますますのご発展と、皆様のご多幸を祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



退職のご挨拶

先端がん治療センター 准教授 こだま たつお
兒玉 達夫

私達は共通一次試験が初めて行われた年に島根医科大学4期生として入学しました。卒業時は同期の半数以上が母校の全診療科に入局し、私は眼科を選択しました。同期の椎名先生が病院長、鬼形先生と田邊先生が本学教授として活躍されているのをみると隔世の感があります。眼科入局後は角膜移植の他、網膜復位術と未熟児網膜症の治療に従事し、治療率100%を維持してきました。大学院での研究テーマが腫瘍病理であったことから眼腫瘍に興味を持ち、眼部腫瘍性病変の診療と並行して病理組織の免疫組織化学的研究も行ってきました。眼科同門会と眼科医会の先生方の協力を得て、日本眼腫瘍学会と日本眼窩疾患シンポジウムの学会長として、松江で2度の全国学会を主催することもできました。厚生労働省の希少がんのワーキンググループ委員として、全国の患者さんが眼腫瘍専門施設にアクセスできるシステム構築にも尽力しました。

2017年に先端がん治療センターに移籍し山陰唯一の眼腫瘍外来を開設してからは、可能な限り視機能を温存できる保存的治療を模索してきました。眼腫瘍は眼科だけでは対応できません。診断から治療に至るまで、長年全診療科の御世話になってきました。改めて御礼申し上げます。定年後も毎週1日は大学病院に通勤し、微力ながら眼腫瘍の診療と啓発に努めていく予定です。今後ともご指導の程宜しくお願い申し上げます。



2025年3月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2025年3月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2025年3月

ご報告



島大病院ニュース 2025年3月

お知らせ

顔面・頭蓋底治療センターを開設しました!!

センター長 さかもと たつり
坂本 達則

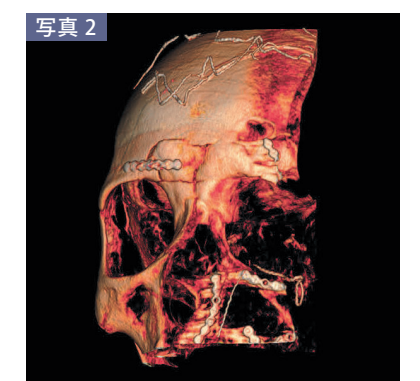
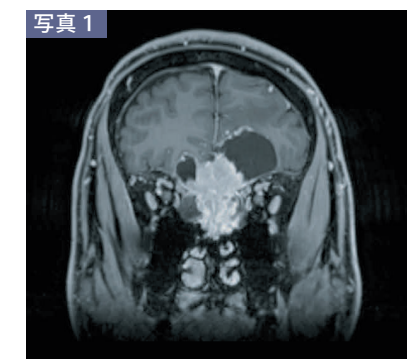
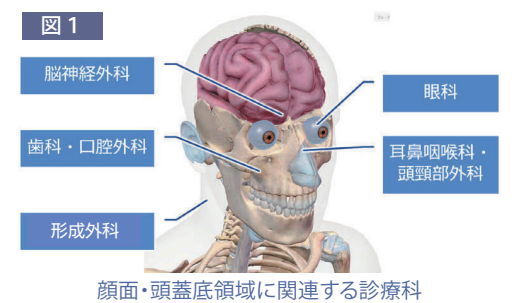
副センター長 はやし けんたろう
林 健太郎 かんの たかひろ
管野 貴浩

顔面や頭蓋底の領域は、複雑な骨と多くの脳神経や重要な血管が関係していることから、手術は複雑かつハイリスクなものになります。関連する診療科が多く、診療科ごとに得意とする1つのアプローチを用いて手術治療を安全に完遂することが困難な症例も多く経験します。また、組織欠損や顔面変形に対する再建手術が必要になる場合もあります。

このような症例に対して、当院ではこれまでも必要に応じて関連診療科が連絡を取り合って治療に当たってきましたが、より機動的に連携するため、顔面・頭蓋底治療センターを開設いたしました。今後、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、脳神経外科、歯科口腔外科、形成外科、眼科が常時連携して治療に当たるとともに、顔面・頭蓋底に関連する診療科横断的な知識を持つ若手医師の育成にも取り組みたいと考えています(図1)。

対象疾患として多いものは、トルコ鞍部病変に対する経鼻内視鏡手術や、眼窩吹き抜け骨折に対する外切開と経鼻内視鏡の併用アプローチですが、前頭蓋底腫瘍に対して顕微鏡・経鼻内視鏡・外切開併用で腫瘍摘出し、遊離皮弁で再建するような大規模で複雑な手術も実施しています。対象症例がありましたら、当院の関連診療科のいずれかにご紹介ください。センターとして対応させていただきます。

複数の診療科が協力することで、生命予後と機能改善を両立させつつ、難易度の高い治療に取り組んでいきたいと考えています。



第19回脳卒中市民講座を開催しました!

高度脳卒中センター センター長 はやし けんたろう
林 健太郎

当院高度脳卒中センターは日本脳卒中協会との共催で、毎年冬に市民講座を開催しています。本年は2月16日(日)、医学部看護学科棟にて第19回脳卒中市民公開講座を開催しました。

脳卒中は救急医、脳神経内科医、脳神経外科医が協力して速やかに治療したり、入院後は脳卒中ケアユニットでの看護やリハビリテーションで積極的に回復を促したりと多職種が連携して診療するのが特徴で、今回は「脳卒中のチーム医療」をテーマに開催しました。

青木慶仁医師が「知っておきたい脳卒中対策」と題して脳神経内科の立場から、辻将大医師が「脳卒中の外科的治療～最適な治療を目指して～」と題して脳神経外科の立場から解説し、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の山根由希実看護師が「脳卒中になったら～入院中の生活について～」と題して脳卒中ケアユニットの効果や脳卒中の予防について説明しました。

参加者は85名にのぼり、熱心に聴講され、多くの質問が寄せられました。今後も島根大学の理念である「人とともに地域とともに」の元に脳卒中診療に邁進してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

問合せ先 脳神経外科医局 TEL: 0853-20-2245

問合せ先 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 外来 TEL: 0853-20-2390



2025年3月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2025年3月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2025年3月

お知らせ



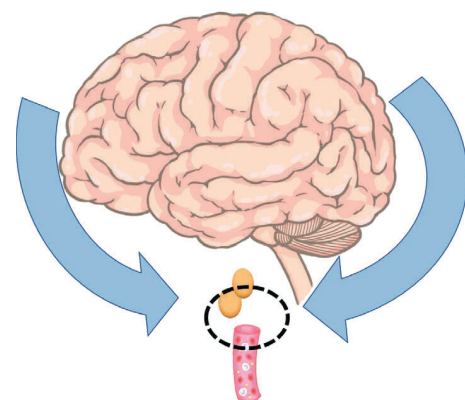
形成外科手技を内科的疾患に 応用して病気を治す

形成外科 診療科長 はやしだ けんじ 林田 健志

当院形成外科では、顕微鏡を用いたマイクロサージャリーにより、様々な疾患の治療を行っています。形成外科の対象部位は頭部から足先までの全身すべてですが、その中でも頭部・顔面が最も得意な領域になります。

近年、アルツハイマー病や認知症などにおいても、マイクロサージャリーを用いた外科的治療法の可能性が報告されています。これらの病気の進行は脳のリンパ系の機能不全または排出障害によって説明可能だとされ、この障害を緩和する排出経路に沿ったリンパ再建が新しい治療法となり得ます。具体的には、脳内老廃物は髄膜リンパ管に移動、皮下の深頸部リンパ節へ排出されてから、末梢循環へとリンパ液は回収されます。そこで、その治療法として、深頸部リンパ節周辺で、顕微鏡を用いたリンパ管静脈吻合術を行うことで、うっ滞した脳内リンパ液が排出されるというアイデアが生まれました。今後は症例の蓄積によって、本当に効果があるかどうかを検証されます。

顔面の浮腫は、リンパ管吻合術によって、改善することを私たちも確認しており、その効果は確実です。他にも、不妊症への血管付き子宮移植など、マイクロサージャリーによって可能な治療法は無限であり、組織欠損への外科的再建手術だけでなく、内科疾患への応用も積極的に行いたいと考えています。



○部位で、顕微鏡下にリンパ節周囲のリンパ管と皮下静脈を吻合して、脳内にうっ滞したリンパ液を心臓へ戻す

問合せ先 形成外科 外来 TEL : 0853-20-2382



2025年3月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2025年3月

お知らせ



タブレット端末を用いた学習支援を開始しました!!

子どものこころ診療部 部長 たけたに たけし 竹谷 健

発達性読み書き障害とは、知的能力に問題がないにもかかわらず文字を流暢に正確に読んだり、書いたりすることに困難な状態で、言語に関するさまざまな認知に問題があることから、通常の授業では解決することは難しいといわれています。その頻度は文部科学省の調査では小・中学生の6.5%と言われていますが、不登校の児童生徒を対象にした別の調査では、不登校児童の20.1%が読み書きに困難があると報告されています。

発達性読み書き障害の支援方法として、ICT（情報通信技術）機器を活用することが有効とされています。例えば、パソコンやタブレット端末を使った代読や文字入力の手助けがあります。文部科学省の対応指針（※）では、「読み・書きなどに困難のある児童生徒のために、授業や試験で、タブレット端末などのICT機器使用を許可したり、筆記に加えて口頭試問による学習評価を行ったりすること」と記載がありますが、学校現場でICT機器の導入を「許可」していますが、具体的な使用方法を教えられる機会は少ない状況です。

そこで、当院ではiPad®を活用した遊びや作業を通じて、児童生徒がICT機器に慣れ親しみ、読み書き、記録、探求といった学習に役立つ使い方を理解し、習得できる学習会を実施しています。

もし、読み書きに困難を感じているお子さんがおられましたら、気兼ねなくご相談ください。上記の支援のお問い合わせ、お申し込みは下記 URL または QR コードをご利用ください。

<https://forms.gle/wHE4FGDSV1JUR6jFA>



※文部科学省所管事業分野における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応指針

問合せ先 子供のこころ診療部 TEL : 0853-20-2383



2025年3月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2025年3月

お知らせ



島大病院ニュース 2025年3月

お知らせ

4月より
順次開始!

オンライン診療 (D to P with D) 拡大に向けて

地域医療政策センター 教授 こんどう まさひろ
近藤 正宏



島根大学附属病院 医師 こんどう まさひろ
隠岐病院担当医師 近藤 正宏
Doctor to Patient with Doctor (D to P with D)

対象：指定難病で治療中あるいは指定難病の疑いがある方

「オンライン診療」という言葉をお聞きになったことがあるかと思います。コロナ禍とともに急速に普及した診療形態であり、多くの場合、診療所の医師と自宅にいる患者さんを通信回線をつないで (D to P: Doctor to Patient) 診療が行われます。患者さんは自宅から動かずに診察を受けることができるというメリットがある一方、聴診や触診ができないため、診察によって得られる医療情報が限られるというデメリットがあります。

島根県では以前から医師不足や医師偏在の問題を抱えています。特に専門性が高い疾患に関して、患者さんは受診の都度、遠方の専門病院まで出かけなければならないという問題点がありました。その課題を解消するため、当院の専門医と地域の拠点病院を受診している患者さん及び担当医とを (D to P with D: Doctor to Patient with Doctor) 回線で繋ぐことによって、専門医がいない地域でも専門医療を提供できる体制づくりを行っています。

このオンライン診療の対象は、指定難病で治療を行っている方及びその疑いがある方となります。こうした取り組みによって、指定難病で治療中の患者さんは地元で専門的な治療を受けることが可能となります。また指定難病が疑われる患者さんは、専門病院を受診する前に予めオンライン診療で専門医による診察を受けることで、必要な検査を地元の病院で済ませてから専門病院を受診することが可能となり、専門病院への通院負担軽減が期待されます。

まずは 2025 年 4 月から、隠岐病院と当院との間で開始します。さらに、半年後をめどに県内の基幹病院にも拡大することを目指し、現在準備を進めています。今後は、成果を本ニュースでも発信していきます。

問合せ先 地域医療政策センター TEL: 0853-20-2237

問合せ先 学務課 大学院担当 TEL: 0853-20-2083

看護職者の
キャリアを支える

大学院で共に学びませんか

看護学科長 つもと ゆうこ
津本 優子

2016 年から、島根大学医学部に島根県初の看護学の大学院が設置されています。ここには、大学を卒業した (または本学の場合、個別の審査で大学卒業と同等以上の学力があると認められた方も含まれます)、すでに免許を取得している看護職の方々が入学します。そして必要な単位を修得し修士論文の審査に合格すると、修士 (看護学) の学位が授与されます。2 月初旬に開催された修士論文の発表会では、皆さん緊張しながらも堂々と質疑応答をしていました。

この課程の目標とする学修成果は、1. 修士論文の作成をとおして、体系的な研究方法を身につけていること、2. 専攻した看護学専門分野の高度な知識と技術を身につけていること、3. 組織的に問題解決を図るための総合的な判断力とリーダーシップを身につけていること、の 3 点です。修士論文の発表をされた皆さんは、これらの学修成果をしっかりと示すことができていました。また、本学で修士の学位を取得した方はすでに 190 名を超えており、現場でリーダーシップを発揮しながら島根県の地域医療を支えています。

文部科学省高等教育局医学教育課による 2022 年度のデータでは、全国の看護系大学の数は 280 校、その中で国公立大学では 9 割以上、私立大学では約 6 割に修士課程が設置されており、2,589 人が修了しています。医療が高度化・複雑化していくのに伴い、看護職に大学院での学修が必要になってきています。本学の大学院 (博士前期課程) には、資格取得につながる助産学コース (助産師)、老人看護 CNS コース (専門看護師)、看護管理学コース (認定看護管理者) もありますので、キャリアビジョンに合わせて大学院進学を視野に入れて頂ければと思います。

お知らせ
島大病院ニュース

2025年3月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援 (地域医療) 担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



お知らせ
島大病院ニュース

2025年3月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援 (地域医療) 担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





ご報告

島大病院ニュース 2025年3月

TeasmSTEPPS研修アドバンスコースの講義を受けている様子



午後の「後輩育成研修」を受けての意見交換の様子



看護師長の

看護マネジメント研修を行いました！

看護部長 かわかみ としえ
川上 利枝

当院の看護部では看護管理マネジメント向上への取り組みとして、毎年、看護管理者研修を行っています。

今年度は1月11日(土)、看護部長、副看護部長、看護師長の32名が参加し、5グループに分かれ、演習、講義を受けました。午前中は、看護管理者として安全性を高めるチーム医療を考え、質の高い看護を提供していくために当院医療安全管理部の深見教授による「TeamSTEPPS研修アドバンスコース」を行いました。

午後は外部講師をお招きし「後輩育成研修」を開催しました。「習熟度に合わせた関わり方」「フィードバック方法」等について、講師との双方向型の演習、講義を受けました。参加者からは「コミュニケーションの大切さが再認識できた。本日学んだスキルを活かしていきたい」「すぐに実践できる内容であり、興味深く受講できた」「同じ悩みを持つ看護師長同士で一緒に学ぶことができよかった」等の意見がありました。

今後も管理者研修の企画を継続し、看護管理者としてマネジメント力の強化、日々のコミュニケーションを大切にし、後輩育成につなぎ、看護管理者として質の高い看護を提供できるように努めてまいります。

問合せ先 看護管理室 TEL: 0853-20-2478



「マシュマロチャレンジ」に挑戦しメンバー同志の相互作用でアイデアや発想が広がり、多様な視点やチームワークの大切さを再確認しました



ご報告

島大病院ニュース 2025年3月

世界最大規模の
北米放射線学会学術集会で

当科医師が教育展示部門賞を受賞しました！

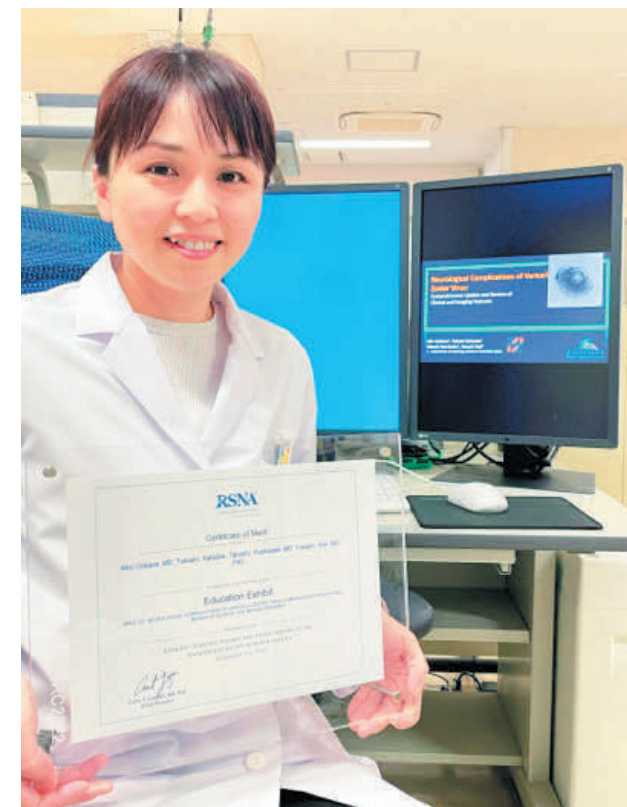
放射線科 診療科長 かじ やすし
楫 靖

2024年12月1日(日)～5日(木)、米国シカゴで開催された北米放射線学会学術集会2024において、当科の河原愛子医師が見事に教育展示部門賞 Certificate of Merit を受賞しました。

この学術集会は放射線医学の分野で最も規模の大きい会で、世界中から放射線医学の専門家が5万人以上集まります。教育展示部門では、世界中から様々な画像診断技術やIVR治療についての教育的な演題が応募され、採択率は20～30%程度です。また、採択された演題の中で、独創性、重要性、時事性、プレゼンテーションの質などが審査され、優れた演題が表彰されます。

河原医師が発表した演題は「Neurological Complications of Varicella Zoster Virus: Comprehensive Update and Review of Clinical and Imaging Features」で、放射線学的観点から水痘・帯状疱疹ウイルスとその神経学的合併症の特徴についてまとめたものです。近年、帯状疱疹の患者さんは増加しており、その合併症についても注目されています。水痘・帯状疱疹ウイルス感染の神経学的合併症の画像所見について病態や解剖学的特徴と関連付けた報告を行い、今回の受賞となりました。

放射線診断の研究では、優れていると認められた点は世界中の施設で取り入れてもらいやすいという特徴があります。今後も、患者さんの画像から多くのことを学び、診療科の先生方と協力しながら、世界に向けて情報発信をしてまいります。



河原愛子医師

問合せ先 放射線科 医局 TEL: 0853-20-2289



2025年3月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2025年3月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





ご報告



大学生向け出張講演を実施しました

乳腺センター 副センター長 かどや たかゆき
角舎 学行

1月15日(水)、島根県立大学看護栄養学部の学生および職員を対象に、「乳がん検診の正しい知識を身につけよう!」をテーマとした出張講演を実施しました。

本出張講演は、乳腺センターの業務の一環として乳がんの基礎知識を深めるとともに、検診の重要性を理解していただくことを目的として開催しています。昨年の出雲西高校に引き続き2回目ですが、今回は未来の医療従事者が対象ですので、将来の医療現場で適切な対応ができるように少し専門的な内容にしました。

講演では、乳がんの発症メカニズムやリスク因子、早期発見の重要性について詳しく解説しました。また、乳がん検診の方法(マンモグラフィや超音波検査)、自己触診のポイントについて具体的に説明し、学生が将来、患者さん、地域住民に実践的な知識を説明できるように工夫しました。

乳腺センターでは、臨床検査技師、看護師を対象とした乳腺超音波の勉強会や、患者さんを対象とした乳がんサロンなどを定期的に開催しています。乳がんに対する啓発活動は、医療従事者だけでなく、学生、乳がん患者、地域住民などトータルに行なっていくことで島根県全体の乳がんに対する意識が高くなると考えています。今後もこのような啓発活動を継続し、地域医療の発展に貢献していきたいと考えています。



問合せ先 外科外来・乳腺センター TEL: 0853-20-2384



ご報告

「夢実現進学チャレンジセミナー」を開催しました!

総務課企画調査係



写真1 気管内挿管の実習



写真2 模擬授業

2024年12月26日(木)、島根県と協力して「夢実現進学チャレンジセミナー」を開催しました。このセミナーは、主に医学部医学科への進学を希望する島根県内の高校1年生に対し、実習や講義を通じて医学を学ぶ機会を提供し、学校の枠を超えて今後の学習意欲や進路意欲を高め合うことを目的としています。

ここ数年、新型コロナウイルスの影響でオンライン開催が主流となっていましたが、今回は久しぶりに対面形式での開催となり、37名の高校生が参加しました。

セミナーでは、まず初めに病院長による講話があり、その後、高度外傷センターでの気管内挿管の実習(写真1)、手術部の見学、そして医学英語を学ぶ模擬授業(写真2)を体験してもらいました。

セミナー終了後、参加者からは「約3時間という短い時間ではありましたが、非常に有意義な時間となり、セミナーを通じて医療に対する意識が変わりました」など、多くの感想が寄せられました。

今回の「夢実現進学チャレンジセミナー」を通じて、参加した高校生たちにとって医学に触れ、医療に対する理解を深める貴重な機会となったのではないのでしょうか。この体験が、参加者の将来の進路選択や学びへの意欲に繋がり、医学を志す新たな一歩となることを期待しています。

問合せ先 総務課企画調査係 TEL: 0853-20-2018





お知らせ

減塩についての集団栄養食事指導をはじめました

あべ ひさこ
栄養治療室 栄養士 阿部 寿子

過剰な塩分摂取は、高血圧をはじめとする生活習慣病のリスクを高め、心不全や脳卒中、腎臓病などの発症につながります。特に日本では、高齢化を背景に心不全患者数が増加しており、減塩を含めた食事・栄養管理も予防、治療には欠かせません。さらに、塩分の摂りすぎは胃がんのリスクにも関係があるとされています。減塩の取り組みとして、まずは「ちょっとした工夫」から始めることが大切です。例えば、だしの風味や食材の味を活かして薄味にする、減塩調味料や薬味、香辛料を活用する、塩蔵品などの加工食品を控えるといった工夫が効果的です。



集団栄養食事指導の様子

当院では、こうした減塩の工夫を学びながら、健康的な食生活を実践できるよう支援するため、入院中の患者さんに集団栄養食事指導を実施しています。塩分を控えつつも美味しく食事を楽しむ方法を、皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。日々の食事を見直し、小さな工夫を積み重ねることで、健康な未来を築いていきましょう。

心臓や腎臓にやさしい食事

① 適切な摂取エネルギー量

適正な体重（大らずせ過ぎず）を保ちながら日常生活に必要なエネルギー量の食事を摂取することが大切です。

$$\text{目標体重(kg)} = \text{身長(m)} \times \text{身長(m)} \times 18.5 \sim 25$$
$$\text{1日の摂取エネルギー量(kcal)} = \text{目標体重(kg)} \times 25 \sim 30\text{kcal}$$

あなたの1日の摂取エネルギー量は _____ kcal

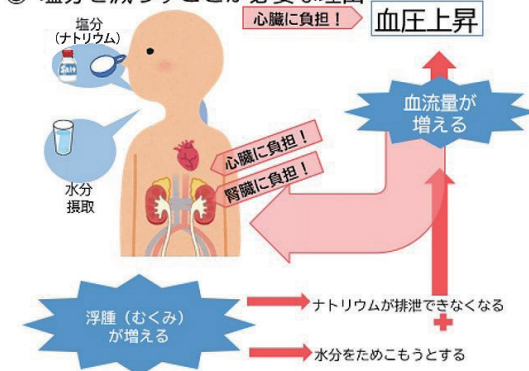
② バランスの良い食事

1日の食事の例 **主食・主菜・副菜**をそろえた食事が大切です



主食 炭水化物 ご飯、パン、麺、いも あなたの目安量 パン _____ g ご飯 _____ g 主食は減らし過ぎない	主菜 たんぱく質・脂質 1食に主菜は1品に 肉、魚、卵、大豆製品	果物 乳製品 1日に1回は取り入れる ビタミンやミネラルもしっかりと摂取することができます
副菜 ビタミン、ミネラル、食物繊維 野菜、海藻、きのこ、こんにゃく 1日の野菜の目標量は350g以上	腎機能に配慮が必要な方は、個別に相談しましょう！	

③ 塩分を減らすことが必要な理由



④ 目標の塩分量 _____ g未満

令和4年の国民健康・栄養調査結果より
日本人の1日の食塩摂取量はどのくらい？

男性 1日10.5g	女性 1日9.0g
島根県は 1日11.3g (R4)	島根県は 1日10.2g (R4)
国が示す目標値は...	...
男性 1日7.5g未満	女性 1日6.5g未満
患者さんの目標値	食塩小さじ1杯分
1日6g未満	

※病状によって個人差があります

説明用のプリント

問合せ先 栄養治療室 TEL: 0853-20-2074

